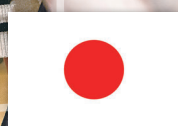




美術館が変わる、若者が変える



令和6年度 文化庁「大学における文化芸術推進事業」

2025 九州産業大学国際シンポジウム

博物館と医療・福祉のよりよい関係

～日本・英国をつなぐオンライン開催～

我が国は、「不登校児童生徒29万9千人(文部科学省調査)」、「若者のひきこもり65万3千人(15歳～39歳、内閣府調査)」そして「強い不安、悩み、ストレスを感じる労働者82.2%(厚生労働省調査)」と極めて深刻な状態となっています。

カナダ、ベルギーなどの医療保険制度では、医療従事者(主に医師)が地域のリンクワーカーを介して、患者へ適した博物館が行う教育プログラムへの参加を薬と同じように「処方」しています。また、英国のNHS＝国民保健サービスはロンドン大学と共同し、文化芸術を活用したメンタルヘルスプログラムを地域住民へ提供しています。

我が国においても、「子ども・若者」を含めた地域住民の「メンタルヘルス支援」に向けた博物館プログラム開発、そして医療・福祉従事者と地域住民、博物館などをつなぐリンクワーカー人材育成を目指すことが、「不登校・若者のひきこもり課題」解決に向けた社会資源の新たな活用方策＝社会的処方の場となる「博物館健康ステーション」の構築、さらに「博物館浴」による「子ども・若者」を支える地域医療の新たな枠組みを提案する機会になると考えます。

しかし、我が国ではこうした実践事例がなかなかありません。そのため、海外事例を知る必要があります。私たちは、これまで文化庁事業の採択を受け国際シンポジウムを開催し、その成果を広く日本の博物館関係者と共有しながら、博物館の社会的価値を考えてきました。

今回は「美術館が変わる、若者を変える」をテーマに、英国の実践事例を学ぶ国際シンポジウムを開催します。

英国のダリッチ・ピクチャー・ギャラリーでは、地域の多様な人々とともに美術館の未来を創るために、地域の若者たちをリサーチ(調査員)として採用し、2年間にわたって「過去は現在のために(The Past for the Present)」というリサーチ活動を行ってきました。若者のメンタルヘルスの支援は、この活動の大きな支柱の一つです。その実践報告を受け、「子ども・若者」を支える博物館と医療・福祉従事者による「博物館浴」の可能性について、日本の参加者と一緒に考えていきたいです。

*博物館浴:博物館見学を通して、博物館の持つ癒し効果の人々の健康増進・疾病予防に活用する活動。

オンライン開催 (Zoomを使用) 2025.1.25 SAT

同時通訳あり

●日本時間 19:00 >>> 21:30 ●英国時間 10:00 >>> 12:30

定員 100名(先着順) 受講料 無料

オンラインにて日本、英国を同時中継。(株)サイマル・インターナショナルによる同時通訳あり *要事前申込(お申し込みは裏面をご覧ください)

■主催:「児童生徒の不登校」「若者のひきこもり」課題解決に向けた社会資源を活用した「メンタルヘルス」支援プログラム開発とリンクワーカー人材育成事業実行委員会(九州産業大学美術館<代表>、九州国立博物館、九州大学総合研究博物館、福岡市博物館、福岡市美術館、直方谷尾美術館、下関市立考古博物館)、九州産業大学

■後援:ブリティッシュ・カウンシル

KYU 九州産業大学美術館
Museum of
Kyushu Sangyo University

KYU 九州産業大学
KYUSHU SANGYO UNIVERSITY

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

大学から
文化力
POWER OF
CULTURE

2025 九州産業大学国際シンポジウム

博物館と医療・福祉のよりよい関係

～ 日本・英国をつなぐオンライン開催 ～

オンライン開催 (Zoomを使用) 2025.1.25 SAT

● 日本時間 19:00 >>> 21:30 ● 英国時間 10:00 >>> 12:30

オンラインにて日本・英国を同時中継。同時通訳あり

開催内容

● 2025.1.25 SAT 司会進行：緒方 泉 / Izumi Ogata 九州産業大学地域共創学部特任教授

● 「美術館が変わる、若者が変える」

● 登壇者：○ ジェーン・フィンドレー (Jane Findley) 英国：ダリッチ・ピクチャー・ギャラリー / Head of Programme & Engagement

○ タラ・オケケ (Tara Okeke) 英国：ダリッチ・ピクチャー・ギャラリー / Community Researcher

スケジュール

日本時間

- 19:00 ● 開催の挨拶
大日方 欣一 / Obinata Kinichi
- 19:05 ● 発表
ジェーン・フィンドレー
「過去は現在のために (The Past for the Present)」
ーダリッチ・ピクチャー・ギャラリーの歴史的絵画
は現代人にいかに語りかけるか
- 19:35 ● タラ・オケケ
「過去は現在のために (The Past for the Present)」
ーコミュニティー・リサーチの視点から

- 19:55 ● 休憩
- 20:10 ● 質問を基にしたディスカッション
モデレーター：緒方 泉
パネリスト：ジェーン・フィンドレー
タラ・オケケ
- 21:15 ● 登壇者の2名から、まとめのメッセージ
- 21:25 ● 閉会挨拶
大日方 欣一
- 21:30



ジェーン・フィンドレー
ダリッチ・ピクチャー・ギャラリー
Head of Programme and
Engagement



タラ・オケケ
ダリッチ・ピクチャー・ギャラリー
Community Researcher



大日方 欣一
九州産業大学芸術学部教授
九州産業大学美術館長



緒方 泉
九州産業大学地域共創学部特任教授

申込方法

次の情報を明記の上、お申し込みください。2025年1月6日(月)から先着順に受け付けます。
受講決定可否、Zoomの参加用URLを後日メールにて通知します。
件名：2025国際シンポジウム
内容：① 氏名、所属、② このシンポジウムに期待すること

メール申込は
こちら



参加対象

博物館関係者、医療福祉関係者、社会教育／学校教育関係者、
大学教員、学生、博物館に関心のある市民

定員：100名(先着順) 要事前申込

受講料：無料

申込メール・
問合せ先

九州産業大学「2025 国際シンポジウム」事務局

E-mail: museum03@ip.kyusan-u.ac.jp (事務局長：中込 潤)

主催

「児童生徒の不登校」「若者のひきこもり」課題解決に向けた社会資源を活用した「メンタルヘルス」支援プログラム開発とリンクワーカー人材育成事業実行委員会(九州産業大学美術館＜代表＞、九州国立博物館、九州大学総合研究博物館、福岡市博物館、福岡市美術館、直方谷尾美術館、下関市立考古博物館)、九州産業大学

後援

ブリティッシュ・カウンシル

事業責任者

緒方 泉
(九州産業大学地域共創学部特任教授)

〒813-8503 福岡県福岡市東区松香台2-3-1 tel 092-673-5160 / fax 092-673-5757
ksumuseum@ip.kyusan-u.ac.jp https://www.kyusan-u.ac.jp/ksumuseum/